

次の文章を読んで、あとの(1)～(5)に答えなさい。(22点)

平均的な日本人であれば、のこぎりは自分に引きつける方向に引く。ところが欧米人ののこぎりの方向は向こう側、つまり外側に向かっており、日本人とは真逆なのである。鼓のような日本古来の打楽器も内に打ちつける。打ったところで内側に向かってすり込むようにして止めることも多い。比較のために、西欧楽器のティンパニを考えてみればよい。ティンパニのバチは皮の表面を打つが、それは上に跳ねるためであり、皮面でバチを跳ねるようにして打っている。息を吹いて音を出す管楽器も同様で、クラリネットはリードを吹くとき、身体を上に向けて、ときに身体を反りかえらせるようにして、外に向かつて音を出している。ところが日本の尺八は首を振りながら、息を下方に向かわせており、ときにかがみ込んで身体を折るように、内向きに吹く。三味線も琴も、爪弾いて、弦の上でバチを止める。和楽器はいずれも、動きを下にして止めることで、リズムの流れをいったん途切れさせているのである。

つまり日本のリズムには断絶がある。切断がある。一方、ヨーロッパのリズムは上向きであるが、それに加えてリズムは連続性を蓄えて粘っており、エネルギーを途切れさせないように次へ次へと持続させてゆくのである。さらによく観察してゆくと、日本人のつくるリズムは交互に裏と表に交替するように進んでいる。踊りにもこのリズムの方向性は顕れている。日本の古典舞踊は、摺り足で、腰を落として沈みこんで踊り、その姿勢で足裏を下に向けて打つことを基本とする。邦楽の動作は基本的に、横向きで、安定的で、上下に大きく動くことを好まない。日本の舞踊にも、伝統にコミカルな面を強調した、跳び上がるものは少なくないのであるが、しかし跳びはねる踊りでも、動きの向きは身体を開放して上に向かうのではなく、跳ねる前に少しタメをつくるようにほんの少し動きを止めており、強拍で揃えるように拍を狙って取るというリズムの基本を外すことは

実はこのような歩き方は、ギリシアの壺絵などにも見られるもので、右脚と右手を同時に出し、左手と左脚を同時に出す歩き方自体は、何も日本独自のものではなかった。身体の安定を保とうとするとき、人間は自然とこのような歩行法を取る。生の基盤を稲作に置く日本人にとっては、身体のブレを防いで動くことが必須のものであった。急な斜面を耕して、水を引き、稲を植えるという労働をこなしていくために、安定を約束してくれる歩行法をしなければならなかった。また、ひねもす地に伏して働く稲作のためには、地面と並行する横方向に注意を払い、どっしりと着実に、下向きに、ときには後ずさりして安定を確保しながら進むことを優先しなければならなかった。

稲作を営むためには、ともに力を合わせて、強い拍をつくるのがお互いに分かりやすい。息を止めて、断絶をつくり、打ち付けるように第一拍目を揃えて作業に携わることが、同じ動作のリズムの共有に役立つのである。下に向かい、内側に引く方向性をもつ日本人の身体の型は、歩き方のみならず、日常生活の動作や仕草に影響を与える。

樋口桂子『日本人とリズム感』より

(注1) 邦楽……日本古来の音楽の総称。

(注2) 六方……歌舞伎で、役者が舞台から退くとき、両手を大きく振り高く足踏みをして歩く所作。

(注3) 鉄砲……相撲で、両手を伸ばして相手の胸部を強く突っ張ること。

(注4) ひねもす……朝から夕まで。一日中。

(1) 向け と動詞の活用形が同じものを、次の1～4の——の中から一つ選び、その番号を書きなさい。

- 1 彼に聞けばわかるだろう。
2 毎日運動することが大切だ。
3 バランスよく食べよう。
4 女の子は楽しそうに笑った。

あまりない。

したがって、リズム感の差異は上向きか下向きか、というよりも、身体内部から外に向かつて開放されてゆく方向か、あるいは身体の中からさらにその芯へ、奥へ向かうか、という違いである、とした方がよいかもしれない。というのは、ヨーロッパのリズムの方向性は上向きである、といっても、上に向かうためには下肢の筋肉はいったん地面を蹴っていて、下に向かう瞬間があるからである。しかしそれははげさせるための動きである。身体を中心にバネがあつてそれがまず縮んで、粘りを絶やさずに次に伸びて外へと解放されていくことが、結果として身体リズムの方向を上に向けている。

日本人の水平方向の運動に敏感な性向は、歩き方にも現れている。かつて日本人は、右手右脚、左手左脚を同時に出し、手と脚を同じ向きに動かして歩く歩き方、つまりいわゆる「ナンバ歩き」という歩き方をしていたとされる。今でも梯子をのぼるときにはわれわれは同じ側の手と足を出している。竹馬の歩き方もそうである。梯子が同じ側の手と脚を同時に運ぶのは、この方法が身体全体を安定させてくれるからである。ナンバ歩きの痕跡は歌舞伎の六方や相撲の鉄砲などに残り、伝統として受け継がれて来ている。ひよつとこの面を頭に載せて踊る八木節の振り付けも、同じ手足の側を同時に出す。さらに盆踊りの振りも同じ側の手足を同時に出して歩く。山形の花笠音頭などのように、踊りの途中でしばしば二、三歩後ろに戻って、また進むというかたちも少なくない。阿波踊りではこの格好で何百人、何千人という人が一斉に練り歩く。最近の身近な例として、映画の『シン・ゴジラ』でゴジラがナンバ歩きで歩いている。昔の日本においてこうした歩き方がさほど珍しいことではなかったとすれば、身体を揺さぶらずに安定して歩くことが、稲作を基調とする日本人の生のスタイルになつており、それが人々の普段の生活の中に組み込まれていたからであろう。

(2) リズム感覚 とありますが、ある生徒が、ヨーロッパのリズムの方向性について、次のようにまとめました。□に入る適切な内容を、十五字以内で書きなさい。

ヨーロッパのリズムの方向とは、上向きというよりも、身体の方角である。

(3) 水平方向 とありますが、これと同じ内容を述べている語句を、本文中から十字でそのまま抜き出して書きなさい。

(4) この文章について述べたものとして最も適切なものを、次の1～4の中から一つ選び、その番号を書きなさい。
1 日本人と欧米人でのこぎりの方向が真逆であると提示することで、住居の違いによって動きが異なることを指摘している。
2 動きを下に向けて止める和楽器の奏法を解説することで、日本のリズムは持続されずに途切れることを表現している。
3 日本の伝統的な動作は跳び上がるものが少なくないことをあげることで、ヨーロッパのリズム感覚との違いを示唆している。
4 日本人の「ナンバ歩き」が他国でも見られる例を示すことで、人間としてリズムの共有が大切であることを論証している。

(5) 日本人の身体の型 とありますが、ある生徒が、このことについて、次のようにまとめました。□に入る適切な内容を、「安定」「生の基盤」「共有」の三つの語句を用いて五十字以内で書きなさい。

日本人の身体の型が、下向きで内側に引く方向性であるのは、□から。

5 次の文章を読んで、あとの(1)～(6)に答えなさい。(26点)

四国の山村留学センターで十三人の仲間と共同生活を送る小学校四年生の「ほく(壮太)」は、釣りの帰りにみかんの葉の上にアゲハチョウの幼虫を見つける。飼育ケースの中でアゲハチョウは順調に育ち、ついに羽化の時を迎える。

「羽化だ、羽化が始まった!」

ほくは廊下を走り回ってみんなに知らせた。宿題を放り出して、みんながどやどやとほくらの部屋に集まってきた。事務室でたくとの音読を聞いてやっていたセンター長まで、「どれどれ」とやってきた。

息をこらして全員が見守る中、カラをやぶってアゲハが頭を出した。ごくつ。ほくはつばを飲みこんだ。

「出た!」

たくとが叫び、みんなが「シー」と指をたてた。興奮するとたくとはじつとしていられない。雄大の足をがんが蹴って、「やめて!」と黄色い声をあげられていた。

アゲハはゆっくりと時間をかけて前脚を壁にかけ、体全体を出そうとするんだけど、飼育ケースのプラスチックがつるつるするせいで、うまくいかない。

「しまった。ダンボールかなにか、すべらない入れ物に移してやればよかった。」

後悔したけど、もう遅い。動かなくなったサナギに興味を失ってしまった自分をなぐりつけたくなった。今となってはもう、息を 見守 ることしかできなかった。

ようやくなんとかカラから抜け出すことに成功したアゲハは、抜け殻の中におしっこをした。

「きやははは、おしっこ、おしっこ」

大声をあげるたぐとに、ふたたびみんなが「シー」と指をたてた。

次の瞬間だった。ふるふるふるえるアゲハの細い脚が壁をつとすべつて、アゲハは飼育ケースの床に落下してしまった。

「あー」

今度は全員の口から声もれた。

飼育ケースの床に落ちたアゲハは動かなかった。まだぬれているような羽も閉じられたままだ。

「死んだのか?」

体中の血がさーと引いて、心臓が音をたてて鳴り始めた。

(2) 次のア、イの——のカタカナの部分の漢字で表したとき、その漢字と同じ漢字が使われている熟語を、それぞれあとの1～4の中から一つずつ選び、その番号を書きなさい。

ア 紙を縦に^①折く。

- 1 決裂 2 風刺 3 避暑 4 過去

イ シュコウを凝らしたおもてなしをする。

- 1 特殊 2 主役 3 取得 4 趣味

3 次の文章を読んで、あとの(1)～(3)に答えなさい。(12点)

【漢文】

漢人有適^①呉。呉人設^②筍^③、問「是何物^④。」

語曰、「竹也。」^⑤ 婦煮^⑥其床簀^⑦而不熟^⑧、乃謂^⑨其妻曰、「呉人^⑩輓輓^⑪、欺^⑫我如此^⑬。」

——『笑林』より——

【書き下し文】

漢人に呉に適くもの有り。呉人筍を設くれば、問ふ

(漢の国の人で)

(呉の国の人だけがたけのこ料理を 用意したところ)

「是れ何物ぞ。」と。語げて曰はく、「竹なり。」と。帰りに

(竹です)

其の床簀を煮るも熟せず、乃ち其の妻に謂ひて曰はく、

(煮えなかったのだ)

「呉人は輓輓たり、我を欺くこと此のごとし。」と。

(このように)

だれも、なにも言わなかった。十秒、二十秒……。アゲハはまったく動かない。見守っていたみんなは一人、二人と引き上げていった。センター長はなにも言わず、ほくの肩をとんとんとたたきと、

「ほれ、音読の続きやるぞ」と、たくとを引き連れ、事務室にもどっていった。一人になると涙が出た。ぼたぼたぼた、雨だれみたいに飼育ケースの底に落ちていく涙をじつと見ていた。

「どうしてサナギになったとき、もつと気をつけてやらなかったんだろう。どうして、どうして。自分への問いばかりが頭の中で渦を巻く。」

そうしてどのくらいの時間がたったのか、雄大とたくとが風呂に入る用意をしに部屋にもどってきたときだった。まったく動かなかったアゲハの糸のように細い脚がかすかにふるえているのに気がついた。最初はほくの息のせいかと思った。だけど違った。息をとめてもやっぱり動いている。「生きてる!」

思わず立ち上がって叫んでいた。

「うそ!」

雄大とたくとが駆け寄ってきた。

「よかつたねえ、壮くん」

たくとの声かけに、泣き笑いで答えた。

「羽を広げるためにつかまる場所を探してるんだ。壮くん、早く棒を立ててやらなきゃ」

こんなときは雄大の知識が頼りだ。はじかれたようにほくは調理室へと走り、割り箸片手に猛ダッシュでもどつた。

「どしたんや、壮太」

ほくのあまりの勢いに、センター長が事務室から顔をのぞかせた。

プラスチックの壁に割り箸を立てかけてやると、待っていたかのようにアゲハは前脚を伸ばして一歩一歩上っていく。そして床から十センチほどのところでぴたりと静止すると、ゆっくりと羽を広げ始めた。

「わあ」

思わず声が出た。思っていたよりずっと大きい。羽のはしからはしまで十センチはゆうに超える。黒に少し青みがかった黄色の模様がある。すぐくきれいだ。

「羽がやぶけとる」

(注1) 床簀……ベッドに敷くための竹で編んだ敷物。

(注2) 輓輓……人を偽り、欺くこと。

(1) 有^①適^②呉^③に、【書き下し文】を参考にして、返り点をつけなさい。

(2) 問^④ふの主語として最も適切なものを、次の1～4の中から一つ選び、その番号を書きなさい。

- 1 作者 2 漢人 3 呉人 4 妻

(3) 【漢文】にある「漢人」と、次の【資料】にある「宋人」について、

両者に共通する内容として最も適切なものを、あとの1～4の中から一つ選び、その番号を書きなさい。

【資料】

宋人に田を耕す者有り。田中に株有り、兔走りて

(宋の国の人で畑を)

(畑の中に木の切り株があり)

株に触れ、頸を折りて死す。因りて其の未を積てて

(突き当たり)

(そこで自分のすきを放り出して)

株を守り、復た兔を得んと冀ふ。兔復た

(切り株の番をし)

(手に入れようと待ち望んだ)

(兔を二度とは)

得べからずして、身は宋国の笑と為れり。

(手に入れることができます)

(彼自身は)

——『韓非子』より——

1 両者とも自分の思い違いに気づいていない。

2 両者とも自分の失敗を人のせいに行っている。

3 両者とも古い習慣を改めることができない。

4 両者とも予想通りになって満足している。

1 放送による検査(16点)

【資料】
話し合いの記録

生徒会役員会(司会:林さん)

[本田さん]
動画を利用する。
・動画の特徴
→
・紹介する内容
→「総合的な学習の時間」
で調べたこと。

[中村さん]
新聞を作る。
・新聞の特徴
→全体を見渡せるので読み
やすいこと。
・紹介する内容
→文化祭で学級旗が展示
されたこと。

新聞の一部

〇〇中学校新聞

(見出し)

10月15日(金)に文化祭が行われた。3年生が制作した各クラス「学級旗」が展示された。

学級旗には、それぞれのクラスの目標の言葉とオリジナルの

(写真)

絵柄が入り、色

とりどりの学級旗が見る人の目を
楽しませた。3年2組の佐藤君
は「細かい部分の色塗りが大変
だった。みんなで力を合わせて
完成させたのでうれしい」と、
クラスの団結を喜んだ。学級旗
は、文化祭終了後、各クラスの
教室に飾られている。

下の読み取りコードから
動画にアクセスできます。



http://.....

2 次の(1)、(2)に答えなさい。(14点)

(1) 次のア～オの——の漢字の読みがなを書きなさい。また、カ～コ
の——のカタカナの部分を書き漢字に書き改めなさい。

- ア 不屈の精神でやり遂げる。
- イ 試合前に激励の言葉をもらった。
- ウ 博物館で剝製を見る。
- エ 砂糖を水に溶かす。
- オ 小学生の頃の自分を顧みる。
- カ 芸術家のソシツがある。
- キ 国王へのチュウセイを誓う。
- ク 古くなった靴をホシユウする。
- ケ 誕生会に友人をマネク。
- コ 湿気を取りノゾク装置。

たくとが言った。四枚ある羽のうち、下の一枚のとがった先が破れて垂
れ下がっていた。きつと床にすべり落ちたときに傷ついたんだろう。ほん
とうはほくも気がついていて。だけど、こわくて口^③にできなかつた。

「おう、とうとう羽化したか」

「……羽が、破けとんよ」
涙声になったのが恥ずかしかった。

「どうれ」

あわてもせず飼育ケースをのぞきこんだセンター長は、

「ほう、立派なアゲハになったなあ。壮太が一生懸命世話したからなあ」
と感嘆したような声をあげた。

「……でも、羽が……」

「大丈夫だ、このくらい。心配するな。ほれ、外に放してやれ」
センター長にうながされ、ほくはそつと手を飼育ケースに入れた。

「羽じゃなくて、胴をつまめよ」

言われるまでもなく、そのつもりだった。これ以上羽を傷つけたくない。
指がふるえているのが自分でもわかつた。力の入れ加減が難しい。入れ
すぎるとつぶしちやいそうだし、入れなさすぎるとつまめない。

つかまえた！
全神経を集中した人差し指と親指に、生きてるアゲハのわななきが伝わ
る。バタついた拍子に鱗粉が舞った。ほくは窓辺へとダッシュし、アゲハ
を空中に放った。一瞬落下しそうになったけれど、すぐにアゲハは羽を
バタつかせて、ひらひらと外灯の下で旋回した。夜見るチョウはきれいだっ
た。黒い羽が外灯の明かりを受けて、キラキラ光る。

「どや、壮太。ここで一句」

センター長に言われたけれど、俳句なんてまったく浮かばなかつた。

ほくはただ黙って、外灯の下で舞い続けるアゲハの行方を目で追っていた。
生き物ってすごい。弱いけど強い。

——八束澄子『ぼくらの山の学校』より——

(1) に入る最も適切な語句を、次の1～4の中から一つ選び、
その番号を書きなさい。

- 1 ぬいて
- 2 つめて
- 3 入れて
- 4 はずませて

(2) 飼育ケースの床に落ちたアゲハは動かなかつた。とありますが、この
あとの場面の表現について述べたものとして最も適切なものを、次の
1～4の中から一つ選び、その番号を書きなさい。

- 1 「ほく」の体の血の流れや心臓の動きを描くことで、「ほく」の
緊張が解けていっていることを表現している。
- 2 誰も言葉を発しない様子を描くことで、「ほく」の周りの人物が
アゲハへの興味を失ったことを表現している。
- 3 過ぎていく時間の秒数を示すことで、子どもたちがアゲハをじっ
と見続けていることを表現している。
- 4 引き上げていく人数を示すことで、子どもたちの宿題の時間が近
づいてきたことを表現している。

(3) もつと気をつけて とありますが、このときの「ほく」の気持ちについ
て次のようにまとめました。に入る最も適切な語句を、本文
中から十二文字でそのまま抜き出して書きなさい。

「ほく」は、アゲハがサナギになったときに やる
べきだったと考えている。

(4) 口^③にできなかつた。について、次のア、イに答えなさい。

ア 「ほく」が口^③にできなかつたことを、十五字以内で書きなさい。

イ ある生徒が、「ほく」が口^③にできなかつた理由を次のようにまとめ
ました。に入る適切な内容を、五字で書きなさい。

「ほく」はアゲハの今の状態を目の当たりにして、そうなつたの
は だと考え、こわさを感じているから。

(5) ある学級で、**ぼく**はただ黙つてにおける「**ぼく**」の気持ちについて話し合いをしました。次は竹内さんのグループで話し合っている様子です。**□**に入る適切な内容を、**四十字以内**で書きなさい。

竹内 「生き物ってすごい」という言葉があるね。
 川田 「**ぼく**」が、言葉を失うほど生き物に驚嘆していることがわかるね。
 橋本 「弱いけど強い」とあるから、生き物の弱さを乗り越える強さに心が動かされているんだと思うよ。
 竹内 アゲハを羽化から見守り続けた「**ぼく**」は、アゲハが、**□**様子から、生き物が「弱いけど強い」ことを感じとったんだね。
 川田 そうだね。特に、生き物の強い生命力に感動しているんじゃないかな。

(6) ある生徒が、この文章の登場人物についてまとめました。文章全体を通して述べられた人物像として最も適切なものを、次の1～4の中から一つ選び、その番号を書きなさい。

- 「**ぼく**」は魚やチョウなどの生き物が好きなので、飼育ケースで多くの生き物を飼っている。
- 「たくと」は衝動的な行動が多いので、周りに迷惑をかけることもあるが友だち思いの面もある。
- 「**雄大**」は豊富な知識があるので、どんな状況でも冷静で動揺することはない。
- 「センター長」はおおらかな性格であるので、子どもたちが宿題をやらなくても気にしない。

令和四年度県立高等学校入学者選抜学力検査

国語

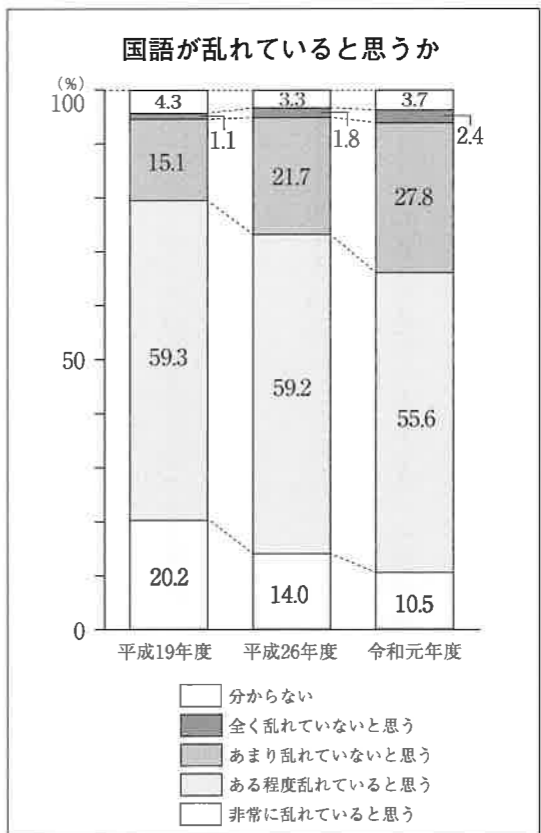
注意

- 問題の**①**は放送による検査です。問題用紙は放送による指示があるまで開いてはいけません。
- 問題用紙は表紙を入れて八ページあり、これとは別に解答用紙が一枚あります。
- 受検番号は、検査開始後、解答用紙の決められた欄に記入しなさい。
- 机の上に置けるものは、受検票・鉛筆(シャープペンシルも可)・消しゴム・鉛筆削りです。
- 筆記用具の貸し借りはいけません。
- 問題を読むとき、声を出してはいけません。
- 印刷がはっきりしなくて読めないときや、筆記用具を落としたときなどは、だまって手をあげなさい。
- 「やめなさい」という合図ですぐに書くのをやめ、筆記用具を置きなさい。

答えの書き方

- 答えは、問題の指示に従って、すべて解答用紙に記入しなさい。
- 答えは、きれいに書き直すときは、きれいに消してから書きなさい。
- 答えを漢字で書く場合は、楷書で書きなさい。

6 次の【資料】は、「国語が乱れていると思うか」というアンケートの結果を、調査年度ごとにまとめたグラフです。これを見て、あとの(1)～(3)に従って文章を書きなさい。(10点)



- 題名を書かないこと。
- 二段落構成とし、それぞれの段落に次の内容を書くこと。
 - 第一段落では、【資料】をもとに自分の意見を書くこと。
 - 第二段落では、第一段落をふまえて、意見の理由を書くこと。
- 百五十文字以上、二百字以内で書くこと。